

東日本大震災では、たくさんの支援・応援をいただきました。私たちが支援する立場になったとき、どのようなことができるのでしょうか。

知って おこら 日本各地、そして世界各国の人たちが私たちがさまざまなかたちで支援・応援してくれました。



勉強できる喜びを感じた文房具などの支援

元気をいっぱいもらったメッセージや千羽鶴



心を和ませた花の支援

各国からの救援金による支援



写真提供：日本赤十字社



気持ちがリラックスできた避難所でのコンサート
写真提供：たがじょう見聞

他にも、津波で家に入った泥を取り除いてくれたボランティアの方々や、募金活動により支援をしてくれた方々もたくさんいました。

考えて みよう 自分たちが支援する立場になったとき、どのようなことができるか考えてみましょう。

「たくさんのご支援ありがとうございます」

私は、3月11日の大きな震災で、家を流されたり、建物がたおされたりと、いろいろな災害にあいました。

ひなん所でも、もちろん水や電気がつかえませんでした。そのころ、私は不安な気持ち、悲しい気持ちでいっぱいでした。

けれど、東京や、茨城の小学校や外国のみなさんからも応援のメッセージが届き、それには「遠くからでも応援しています。」「希望をもってがんばってください。」などたくさんのはげましの言葉が書かれていました。私は明るい気持ちになりました。とてもうれしかったです。

それから、ボランティアのみなさんにも元気づけられました。夏休みに勉強を教えていただいたり、お花をいっしょに植えたり、体育館にアートをつくりにきていただいたりと、いろいろなことをしていただきました。本当に感謝しています。

私は、みんなで助けあって協力して前に進んでいきたいです。

本当にありがとうございました。



東日本大震災 支援へのお礼と感謝の文集
『～復興～ 吹幸～ みんなで幸せの風を吹かせよう』より

「自分たちにできることはないかな」

校内での募金活動 (東松島市立鳴瀬桜華小学校)

平成26年8月に起きた広島市の大雨による土砂災害の被災地の状況を見て、「まるで震災のときみたいだね。自分たちにできることはないかな。」と、児童自ら「募金しよう！」と考え募金活動を行いました。



児童会の運営委員が各クラスをまわって募金活動